

心臓病 最も多いのは心臓に血の行かなくなる「虚血性心疾患」

心臓病は、大きく三つに分けられます。

1. 先天性心疾患
生まれつき心臓の形が変形している為に起こる心臓病です。
2. 後天性心疾患
リュウマチ熱による弁膜症、ウィルスによる心筋症です。
3. **虚血性心疾患**
近年の食生活の洋風化、現代生活でのストレスの増加が原因と言われているのが、この「虚血性心疾患」です。
心臓病のほとんどがこの「虚血性心疾患」といえます。

同じ血管系の病気でも、「脳血管疾患」は年々減少していますが、「心臓病」はガンについて死亡原因の第二位の位置を1985年以来、現在まで保ち続けています。

「虚血性心疾患」とは、心臓を動かす筋肉（心筋）に酸素や栄養を補給している血管（冠動脈）が、狭くなったり、流れが悪くなったりして、心臓が酸欠状態になり、心臓の動きが悪くなるのです。（これが「狭心症」です。）
このとき、胸痛を感じたり、不整脈が起こったりします。
この原因には、ストレス、生活習慣病、メタボリックシンドローム等があげられます。

「虚血性心疾患」をほっておくと、心臓に栄養を送る血管が閉じてしまう「心筋梗塞」となる可能性があります。
「心筋梗塞」になると、心臓の筋肉（心筋）が腐って（壊死）しまい、取り返しのつかないことになる可能性があります。

年中無休で働いている心臓の調子をみてあげることをお勧めします。

団塊の世代が高齢化し、心臓病の予備軍の増加が予想されます。厚生労働省は、昨年、戦後はじめて、死亡統計から心疾患・脳血管による死亡原因を抽出し、統計を別に分けて取りまとめを行いました。
(この二つで死亡原因のおよそ9割以上を占めています。)

その統計によれば、平成16年には、心疾患による死亡者数は、約16万人です。
昨年(平成18年)には、おおよそ17万人を超えていることが確実視されています。
今、色々取りあげている交通事故による死亡者数は昨年6352名（「1月2日の警察庁のまとめ」による）です。
この数は少なくはありませんが、しかし、この約二十数倍もの方が『心疾患』で亡くなられているのです。

これが現実です。

他人事ではありません。自分の身体は自分で守りましょう。まずは、自己管理からです。